

瀧 敦弘

広島大学大学院社会科学部 教授

シルバー人材センターの現状と問題点の研究

高齢化が急速に進展し、労働力の年齢構成が変化するなか、高齢者雇用の環境整備や社会保障制度の見直しなど、経済社会システムの変革が求められている。ここでは、高齢者就業の現状と問題点について考察した後、広島市シルバー人材センターでのアンケートをもとに、高齢者の就業意欲と、それを阻害する要因について分析し、多様化するこれからの高齢者労働の在り方について検証した。

高度成長期に発足したシルバー人材センターは、当時の豊かな年金制度を背景としており、高齢者の「生きがい」対策を第一義として掲げていた。就業対策というよりも、福祉的側面が重視されていたといえる。しかし、ここでの検証では、高齢者の就業意欲は、「生きがい」から「経済的要因」にシフトしていることが、明らかになった。そこで、シルバー人材センターには、「生きがい」としての就業機会を提供するだけでなく、年齢差別を克服できる有効な職業紹介システム、あるいは能力開発システムとして機能するよう、変革を求められているといえる。